

千曲川源流～甲武信岳一帯の植物観察会

池田登志男

第141回例会は、平成4年7月30日～8月1日の3日間、南佐久郡川上村梓山～千曲川源流～甲武信岳～十文字峠～梓山の一帯で、神奈川県立博物館学芸部長の高橋秀男先生を講師にお願いして佐久教育会植物委員会の臨地調査と合同で行なった。

参加者は講師の高橋秀男先生、小口好久、平林睦男、宮島吉彦、中山冽、前島亮、小林春雄、岩田睦夫、友野増男、森泉恒男、それに佐久教育会委員7名そして幹事代行の池田登志男の計18名でした。

第1日目、7月30日は午後1時から川上村梓山のアズサバラモミ、クロバナウマノミツバの自生地周辺で植物講習会として観察会を行なった。上記2種のほかにレンゲショウマ、エゾカモジグサ、サンヨウブシ、ヤマヒメワラビ、エゾムギ、オオバヤナギ、イチゲフウロ、カラメドハギ、バイカモなどが見られた。

第2日目、7月31日は梓山の白木屋旅館を8時出発、千曲川源流で昼食、甲武信小屋に午後3時着、宿泊した。

標高1500m近くで野菜畑が終わり登山道になる。そのあたりから千曲川源流(2200m)まででは、シラカバ、オオバヤナギ、ハウチワカエデ、オガラバナ、モトゲイタヤ、オニイタヤ、ダケカンバ、ナナカマド、イヌシデ、コメツガ、トウヒ、ヤハズハンノキ、ケヤマハンノキ、サワグルミ、ヒロハカツラ、タカネザクラ、シラビソ、オオシラビソなどの高木の林の下にザリコミ、コミネカエデ、ホツツジ、トウゴクミツバツツジ、イボタヒョウタンボク、オニウコギ、アズマシャクナゲ、ウラゲハクサンシャクナゲなどが見られた。特に注目すべきものとしてはマメザクラ、ヤマグルマ、そしてア

セビの群生(標高1600m)などがある。草本の主なものとしては、レイジンソウ、キンレイカ、ミヤマオトギリ、タチコゴメグサ、シロバナヘビイチゴ、ハンショウヅル、ミヤマアキノノゲシ、ミヤマカラマツ、フサガヤ、ミヤマスマミレ、ウスギオウレン、ホソイノデ、コハリスゲ、タニギキョウ、シノブカグマ、バイカオウレン、ウサギシダ、カイトカラコウ、ヒメタケシマラン、ミヤマハンショウヅル、タカネサトメシダ、ヒトツバキソチドリ、オサバグサなどが見られた。

千曲川源流から15分ほど登ると甲武信岳の尾根にでるがそこはシラビソ、オオシラビソ林でトウヒ、コヨウラク、コフタバラン、バイカオウレン、ウスギオウレン、キソチドリなどが見られた。尾根に出ると、しばらくして山梨県側は林がなくなり展望がきくようになり間もなく山頂に至る。山頂付近ではハリブキ、ハコネコメツツジ、コケモモ、ヒメイワカガミ、タカネニガナ、ヒメシャジン、クロウスゴ、カラマツ、キタゴヨウ、チョウセンゴヨウ、ミヤマハンショウヅルなどが目についた。

第3日、8月1日は甲武信小屋(2290m)を朝6時前に出発、三宝山(2430m)を経て十文字峠の小屋で昼食、梓山に午後2時ころ下山した。甲武信岳～三宝山～十文字峠までは、シラビソ、オオシラビソの林の中にダケカンバ、ナナカマド、オガラバナ、トウヒ、クロベなどが混在し、コメツガ林も所々で見られた。目についた主なものを挙げるとアズマシャクナゲ、ウラゲハクサンシャクナゲ、ウスノキ、ネコシデ、ウラジロヨウラク、ネズミサシ、ハナヒリノキ、タカネザクラ、ギンリョウソウ、シャクジョウソウ、ウスバスマミレ、キソチドリ、ミヤ

マフタバラン、イチヨウラン、コイチヨウラン、ミヤマウズラ、タカネママコナ、キンレイカ、ウラジロハナヒリノキ、ハコネコメツジ、ヤマホタルブクロ、バイカオウレン、ミツバオウレンなどがある。

十文字峠(2035m)から梓山までの下りの道では、テツカエデ、ヒトツバカエデ、ヒロハカツラ、オオバマンサク、シウリザクラ、ミヤマザクラ、ダケカンバ、コメツガ、カラマツ、ウラジロノキ、ミズナラ、シラカバなどの高木、そしてその下には、サビバナナカマド、サラサドウダン、トウゴクミツバツツジ、ヒロハツリバナ、ニシキウツギ、ミヤマウラジロイチゴ、オオカメノキ、バイカウツギ、サワダツ、キバナウツギ、サンヨウブシ、イッポンワラビ、ミヤマウド、ヤマヒメワラビ、エゾカモジグサ、アズマハンショウヅル、ヤハズハハコ、ケゴンアカバナ、レンゲショウマ、オオカサモチなどが見られた。

横浜からおいで下さった高橋秀男先生の臨地指導の下で、好天にも恵まれて、充実した例会できたことを、先生に感謝して、午後3時前、高原野菜の畑を後にして、それぞれ帰途についた。

〔新刊紹介〕今井建樹著「信州高山高原の花」B 6 版、461頁、1992年刊、3000円、信濃毎日新聞社。

本会会員の今井建樹氏の著書である。ご存知のように今井氏は諏訪地方を中心に長野県の植物、特に稀産の植物について長野県でも一二を争う知識を有している。その著者が長野県の高山帯亜高山帯の草本・低木・シダ植物を中心に写真1287枚をつけて解説している。変種や品種も含まれるので種数は1200種前後であり、長野県の高山亜高山の植物はほぼ網羅されている。野外で植物の名前を調べるのに適当であろう。またシナノダケなどの稀少種やシロバナショウキランなどの珍しい品種の写真も掲載されているので珍しい植物に興味のある人にもお勧めしたい。(K.I.)

〔長野県植物研究会誌バックナンバー割引販売のお知らせ〕

会誌のバックナンバーは現在信州大学教養部の生物学教室に保管されていますが、生物学教室の空いているスペースがほとんどなくなってきたため、この度総会の承認を得て、バックナンバーを整理することになり、会員のみなさんに割引で販売することになりました。

販売方法、販売価格は以下の通りです。

セット販売：会誌7,10～20号各1冊計12冊 セット価格10,000円、19セット

(11, 16号はコピーの場合があります)

会誌10,12～15,17～20号各1冊計9冊 セット価格7,000円、20セット

単品販売：10,12～15,17～20号は1冊1,000円でも販売します。

販売方法：同封の年会費の振込用紙、または現金書留を利用下さい。売り切れの場合はご容赦下さい。代金を返金します。また電話などで在庫の有無を確認することも可能です。

連絡先：信大教養生物 TEL.0263-35-4600 FAX.0263-35-5450

井上 健(内7183) 菅原 敬(内7184)